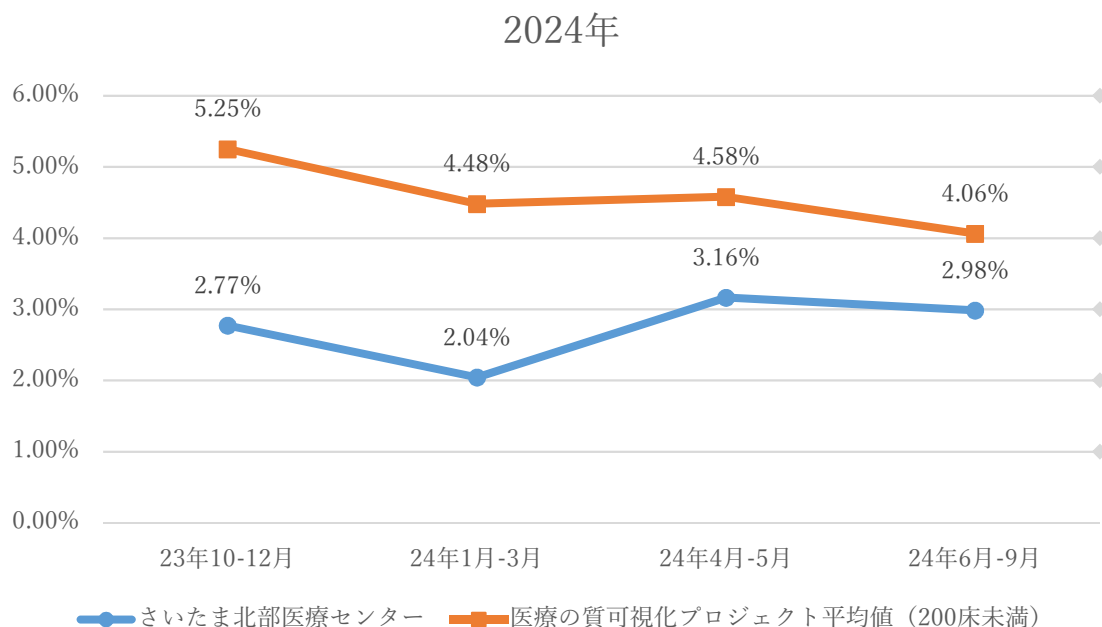


入院患者の転倒・転落発生率



分母：入院患者延べ数 分子：入院患者に発生した転倒・転落の発生件数

☆指標の説明

本指標は、入院患者さんのうち転倒・転落に至った患者さんの割合を示したものです。

より低い数値の方が望ましいとされています。

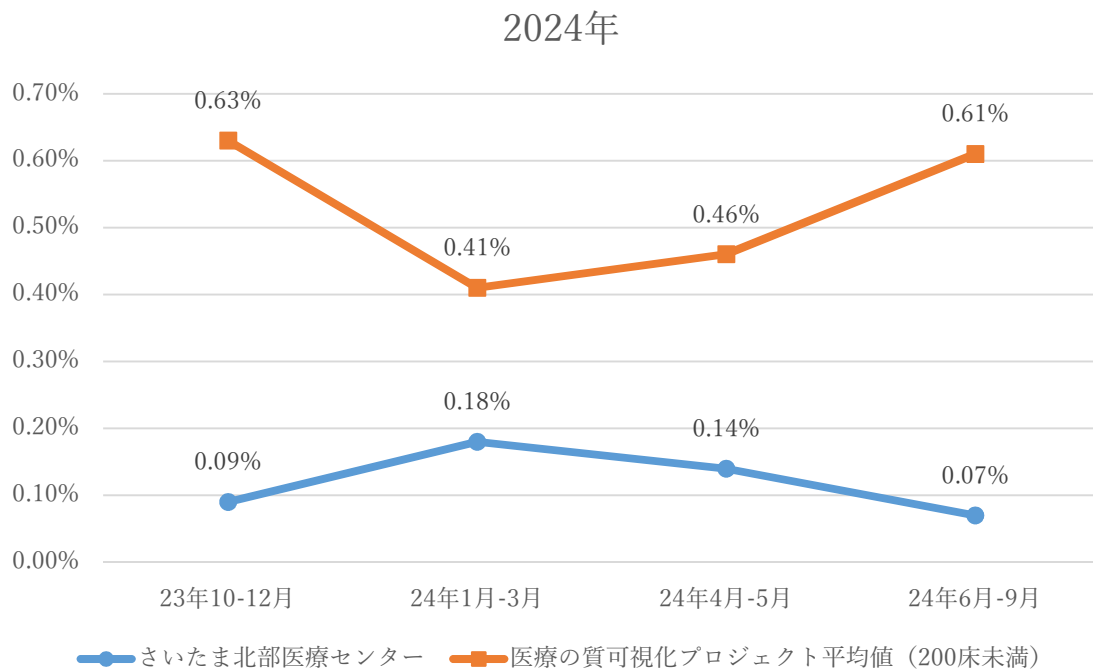
☆当院の指標の説明

当院は、平均より低い数値で推移しています。

患者さんが転倒・転落に至るのは、入院による環境の変化や治療・手術の影響など様々な原因があります。

医療安全対策委員会やリスクマネジメント部会が中心となり、ラウンド等を行うことにより入院患者さんの転倒・転落の対策に努めています。

転倒転落によるインシデント・アクシデント 影響度分類レベル 3b 以上の発生率



分母：入院患者延べ数 分子：インシデント影響度分類レベル 3b 以上の転倒・転落発生率

☆指標の説明

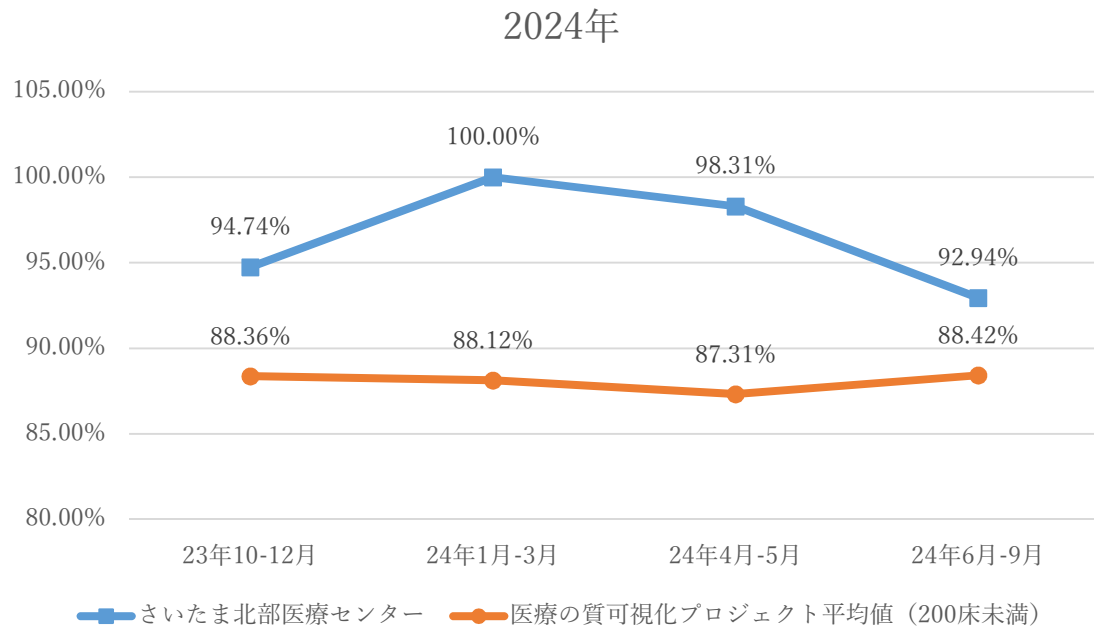
インシデント・アクシデント影響度分類レベル 3b とは、アクシデントに分類され、事故により、濃厚な処置や治療を要した場合を指します。
より数値が低い方が望ましいとされます。

☆当院の指標の説明

当院は平均より低い数値で推移しています。

医療安全管理室が中心となり対策に努めており、実際に発生した場合には、発生した事例を検討し、再発の予防に努めています。

リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率



分母：肺血栓塞栓症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数

分子：分母うち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数

☆指標の説明

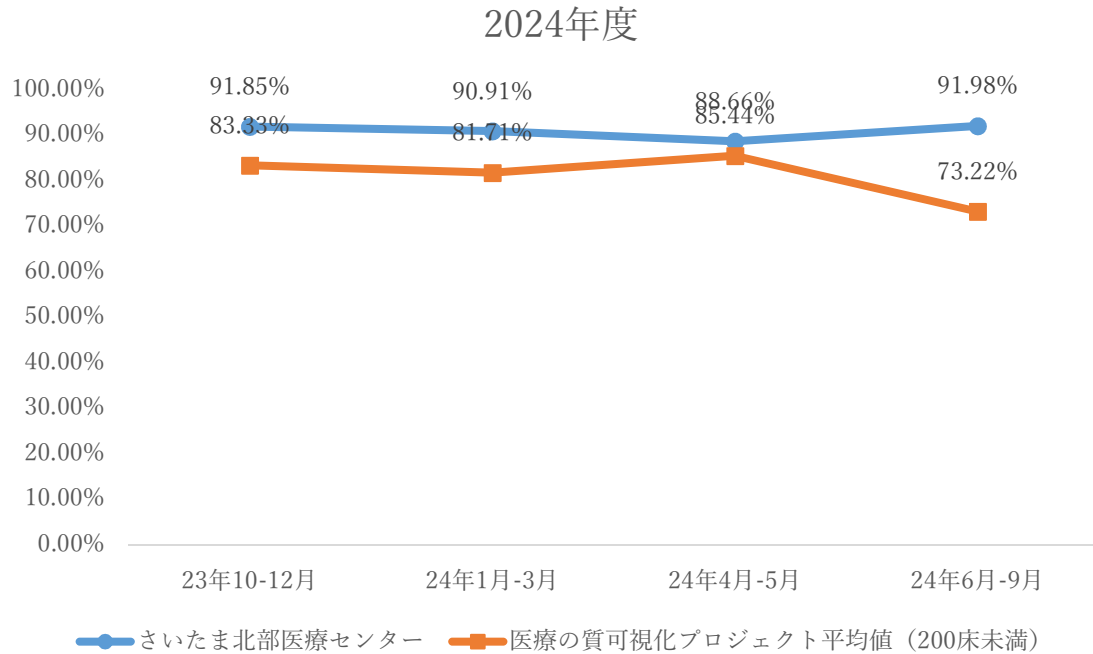
肺血栓塞栓症は、足の静脈にできた血栓が肺の血管に詰まり、呼吸困難等を引き起こす病気です。特に、手術を受ける患者さんは、長時間の安静や術後の身体活動の低下などから、この肺血栓塞栓症を発症するリスクが高まります。より高い方が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は、平均より高い数値で推移しております。

統一した方法でリスクレベルを分類し、院内の肺血栓塞栓症予防の院内ルールに基づき確実に対策を行っております。

血液培養 2 セット実施率



分母：血液培養オーダー日数 分子：血液培養オーダーが1日に2件以上ある日数

☆指標の説明

血流感染の診断を行ううえで血液培養の実施は必要不可欠です。2セット摂取することにより感度が高まります。

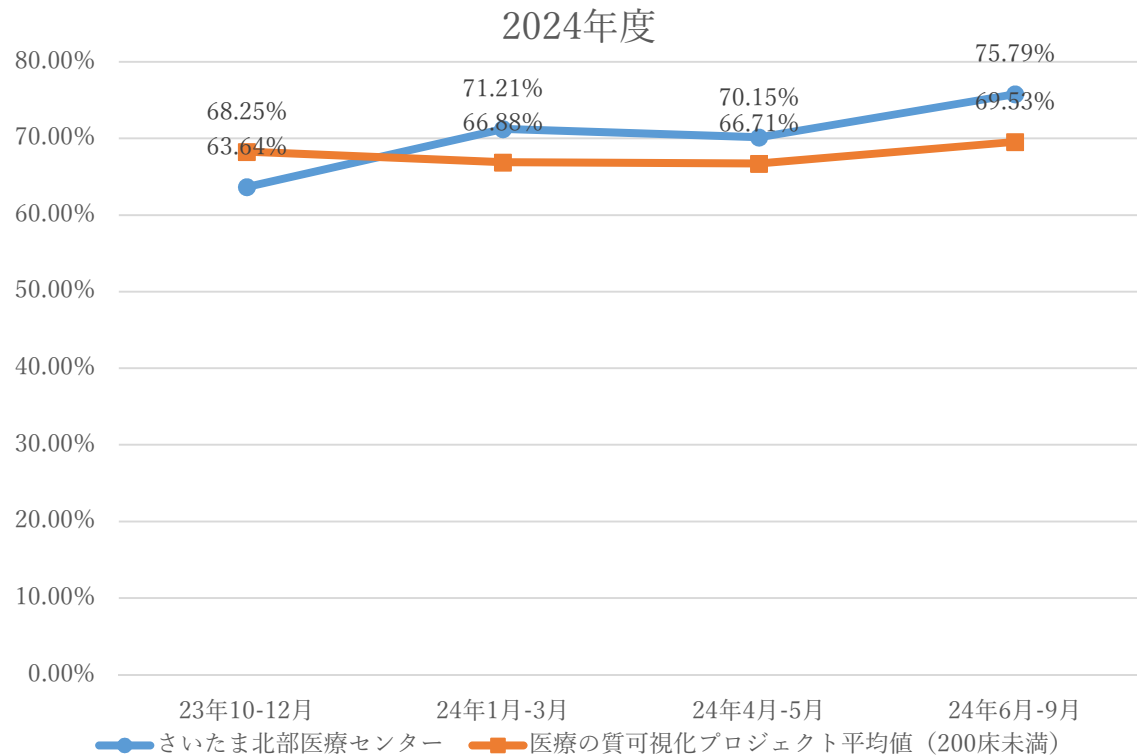
より高い方が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は、平均より高い数値で推移しております。

検出感度向上のためエビデンスに基づき、正しい検査を遵守しております。

広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率



分母：広域スペクトル抗菌薬が処方された退院患者数

分子：分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数

☆指標の説明

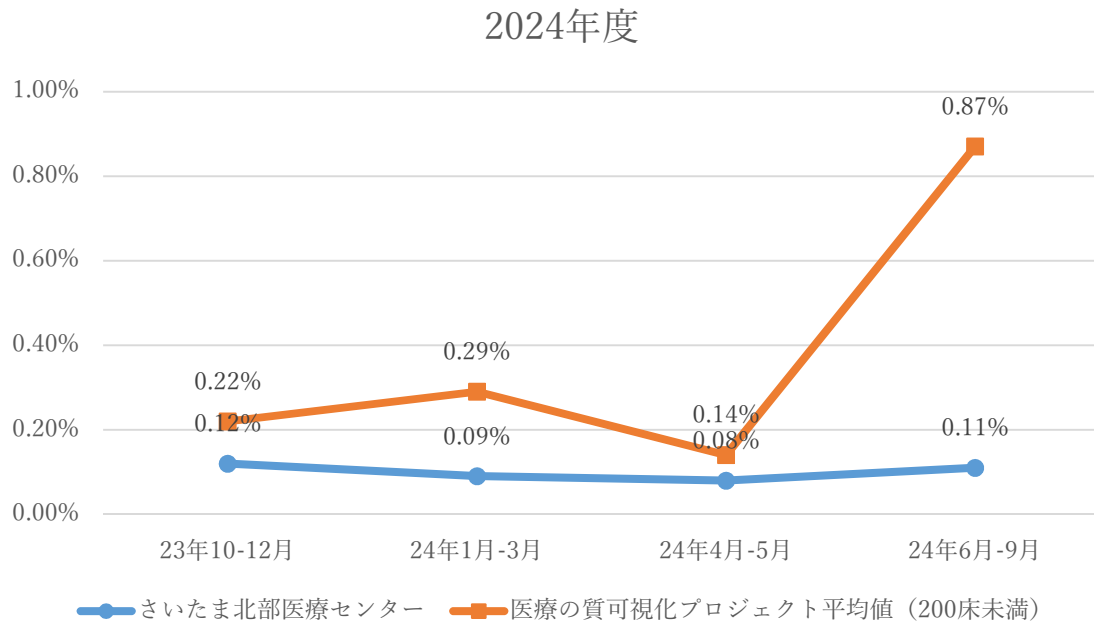
広域スペクトル抗菌薬とは、様々な種類の細菌に効果を発揮する強力な抗菌薬です。広域スペクトル抗菌薬を安易に、不必要に使用し続けると、抗菌薬が効かない「耐性菌」が発生するリスクが高まります。そのため、抗菌薬を投与する前に、病原菌を特定するための細菌培養を実施することが推奨されています。より高い方が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は平均より高い数値で推移されています。

手術時の細菌培養提出をルール化するなど積極的に実施しています。

d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率



分母：入院患者延べ数 分子：入院患者のうち褥瘡（d2 以上）の新規発生患者数

☆指標の説明

褥瘡は、患者さんの QOL の低下をきたすとともに、感染を引き起こすなど治療が長期に及ぶことによって、結果的に入院の長期化や医療費の増大にもつながります。

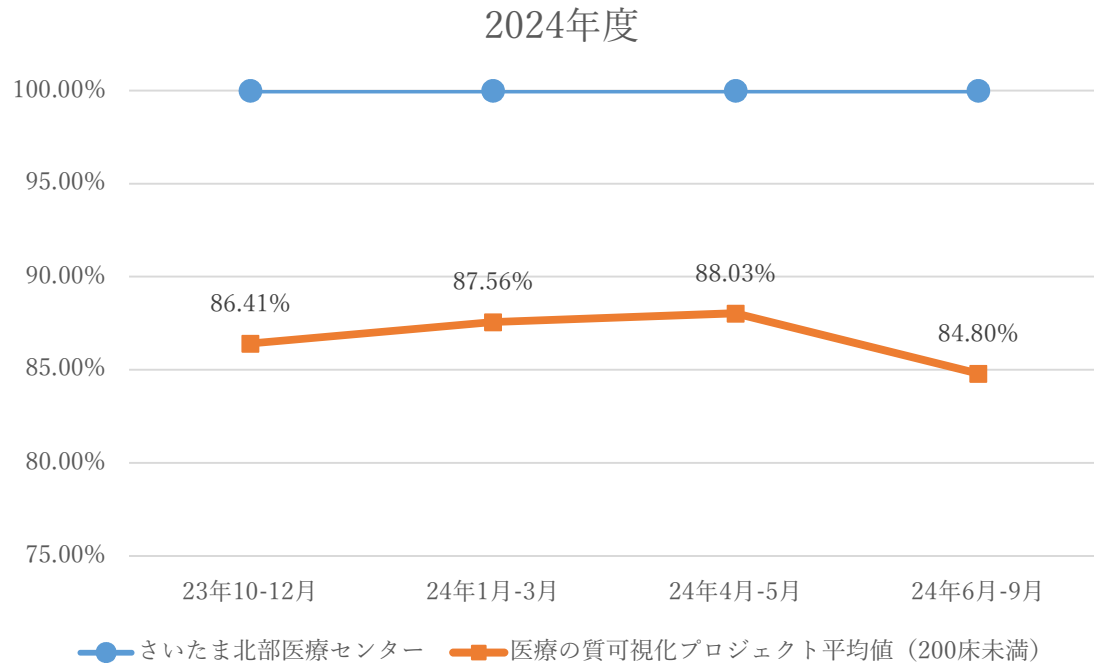
より低い方が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は、平均より低い数値で推移しています。

褥瘡対策委員会が中心となり、対策に努めています。

65 歳以上の患者の入院早期の栄養アセスメント実施割合



分母：65 歳以上の退院患者数

分子：分母のうち、入院後 48 時間以内に栄養アセスメントが実施された患者数

☆指標の説明

早期に低栄養リスクを評価し適切な介入をすることで、在院日数の短縮、予後改善につながります。

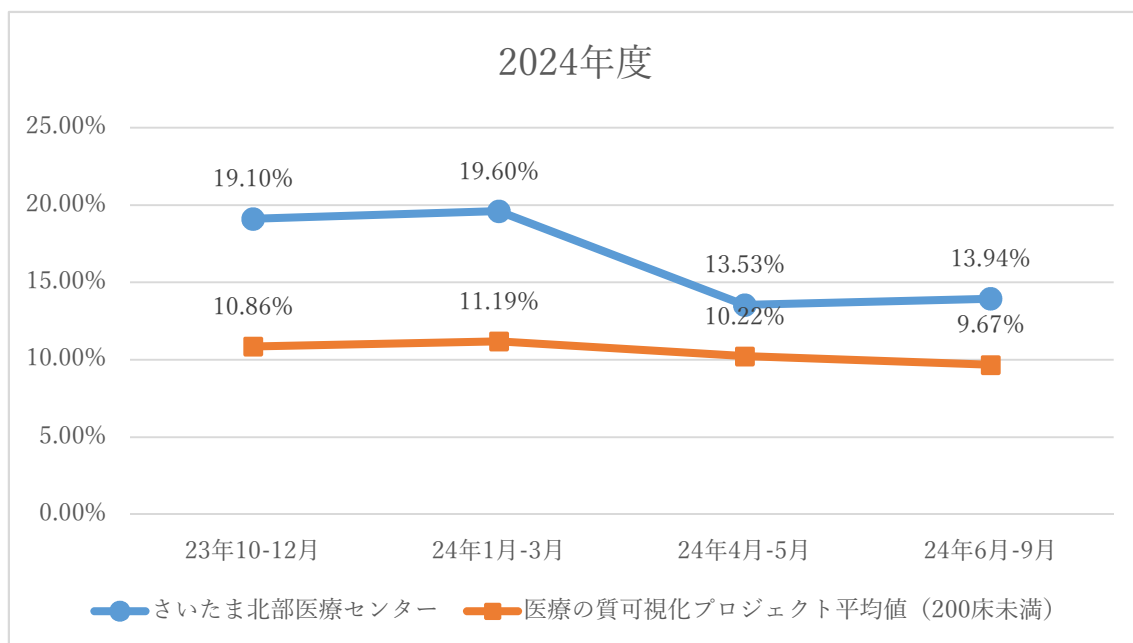
より高い方が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は平均より高く、すべての期間で 100%で推移しています。

当院では、栄養管理室が中心となりすべての入院患者さんに栄養アセスメントを実施しています。

身体拘束の実施率



分母：退院患者の在院日数の総和 分子：分母のうち、身体的拘束日数の総和

☆指標の説明

身体的拘束は、制限の程度が強く、また、二次的な身体的障害が生じる可能性もあるため、代替方法が見出されるまでの間のやむを得ない処理として行われる行動の制限であり、できる限り早期に他の方法に切り替えるよう務めることが推奨されています。

より低い数値が望ましいとされています。

☆当院の指標の説明

当院は、平均よりも高く推移しています。

2025 年度より身体拘束最小化委員会を立ち上げ、ラウンドを実施する等身体拘束の最小化に努めています。